

栃木県の品種・技術開発の取組

とちぎの農業関係試験研究機関

■ 農業関係の4試験研究機関が、「栃木県農業試験研究推進計画」に基づき、効果的・効率的な試験研究に取り組んでいます。

【農業試験研究の重点テーマ】

- 1 栃木のブランド力を高める農産物の開発
- 2 気候変動等の環境変化に適応した生産技術の開発
- 3 生産力向上や省力化を実現する革新的な技術の開発
- 4 農産物の新たな価値を創出する技術の開発
- 5 地域の活力や魅力向上につながる技術の開発

◆畜産酪農研究センター

乳用牛、肉用牛及び豚の生産技術や畜産環境保全技術の研究開発を行っています。

◆県央家畜保健衛生所（家畜衛生研究部）

家畜疾病の診断・予防技術の研究開発を行っています。

◆農業総合研究センター

○本場

農作物の生産技術の研究開発や、新品種の開発を行っています。

○いちご研究所

全国唯一のいちご専門の公設研究機関。いちごの新品種開発や高品質超多収技術に関する研究開発を行っています。

◆水産試験場

本県特産魚の生産技術の研究開発や、水域生態系の調査・研究を行っています。

オリジナル品種の開発

■ 県試験研究機関では、消費者ニーズや農業者からの期待に応えるため、いちごや水稻をはじめ、なしや花きなどのオリジナル品種を、優れた育種技術により次々と開発しています。

いちご「とちあいか」



- 品種登録 令和6年6月
- 主な特徴
 - ・酸味が少なく際立つ甘さ。
 - ・収穫始めが10月下旬と早く、収穫量が多い。
 - ・切り口はへた部分がくぼむハート型である。
- 生産状況 令和7年産 397.1ha

水稻「夢ささら」



- 品種登録 令和4年2月
- 主な特徴
 - ・心白がはっきりしていて日本酒造りに適する。
 - ・玄米を削る際にも砕けにくいので、大吟醸酒の製造に向く。
 - ・稲が倒れにくく、病気に強い。

いちご「ミルキーベリー」



- 品種登録 令和6年6月
- 主な特徴
 - ・果実が白い。
 - ・まろやかな食感のいちご。
 - ・果実は大きいものが多く、収量性に優れる。
- 生産状況 令和7年産 2.6ha

大麦「もち絹香」



- 品種登録 令和4年2月
- 主な特徴
 - ・弾力のある食感
 - ・麦飯特有の不快感臭いが発生しにくい。
 - ・炊飯後も褐変しにくい。（写真は炊飯24時間後）

にら「ゆめみどり」



- 品種登録 平成29年2月
- 主な特徴
 - ・生育が旺盛で多収。
 - ・収穫を重ねても葉幅の低下が少なく、品質が安定している。
- 生産状況: 40.1ha(令和6年産)

大麦「ニューサチホゴールド」



- 品種登録 平成30年2月
- 主な特徴
 - ・ビールの品質を低下させる酵素の一種(Lox-1)を含まない。
 - ・その他の特性はサチホゴールド同様で、栽培性に優れる。
- 生産状況: 7,689ha(令和6年産)

全雌三倍体サクラマス 「銀桜サーモン」



- 商標登録 令和4年3月
- 主な特徴
 - ・大型(全長約50cm)に成長する。
 - ・銀色に輝き、姿、色が美しい。
 - ・引きが強く、釣り味が良い。
- 取扱い管理釣り場
令和7年1月時点: 8箇所

あじさい「キャンディポップ」



- 出願公表 令和5年3月
- 主な特徴
 - ・八重咲きのがくあじさいで、花色は深みのある濃いピンク色で赤いふちどりが入る。

あじさい「スターポップ」



- 出願公表 令和5年3月
- 主な特徴
 - ・八重咲きのがくあじさいで、花色は白から淡いピンク色で赤いふちどりが入る。

あじさい「ジュエリーポップ」



- 出願公表 令和5年3月
- 主な特徴
 - ・八重咲きのてまりあじさいで、花色は白から淡いピンク色で赤いふちどりが入る。

現在登録されている栃木県育成の品種数（令和7年10月末日時点）

※出願公表品種を含む

品目	水稻	麦	いちご	なし	かぼちゃ	うど	あじさい	りんどう	にら	その他	計
品種数	4(5)	6(12)	5(10)	2(3)	(1)	2	7	2	1(3)	2(16)	31(61)

※（ ）内はこれまで登録した品種数

新技術の活用

■ 乳牛の新たな暑熱対策技術「SLICK牛」

近年、夏場の気温上昇が顕著になり、乳用牛の乳量や繁殖性に悪影響を与えることが懸念されています。夏場の暑熱対策としては、扇風機の設置など畜舎の改善や、添加資材の給与などに取り組まれてきました。しかし、今後、ますます暑熱の影響が大きくなると考えられることから、畜産酪農研究センターでは、暑熱耐性の高いSLICK遺伝子を導入した乳牛自身の耐暑能力の向上に取り組んでいます。

この牛は、被毛が短い特徴をもち体温調節能力が高いため、夏季でも安定した生乳生産を維持できる可能性をもっています。

今後、SLICK遺伝子を持つ牛がどの程度暑さに強いのかを確認するため、食欲や乳量への影響等を調査していきます。

